

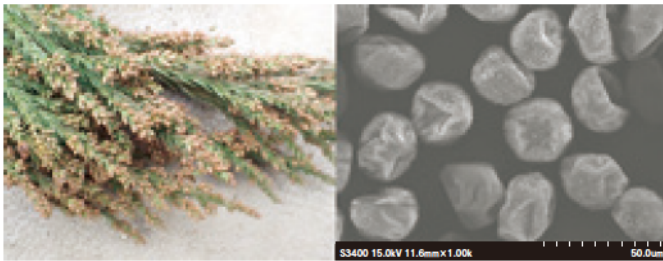
九大病院だより

九州大学病院 広報委員会発行

■スギ花粉症の治療最前線

花粉症とは？

花粉症とは、スギやヒノキ、イネ、カモガヤ、ブタクサなどの植物の花粉が原因となってアレルギー反応を起こす季節性アレルギー性鼻炎の総称です。なかでも日本人の3割を超える人がスギ花粉症を発症し今なお増加傾向にあります。



スギの雄花とスギ花粉の電子顕微鏡写真（1000倍）

花粉が鼻や気管、肺の粘膜などに付着すると、身体のもつ免疫反応が花粉を異物と認識して抗体を作り出すことがあります。これを感作と言います。通常、花粉は異物としてはみなされませんが、感作が成立した場合は花粉に対するアレルギー反応が起こり、一般的な花粉症の症状であるくしゃみ、鼻水、鼻づまりなどが現れます。

スギ花粉症の治療について

1. 薬物治療

花粉症の治療で現在中心となる薬は、抗ヒスタミン剤と鼻噴霧用ステロイド薬の2種類です。また、鼻づまりの症状が目立つ場合は、鼻づまりへの改善効果の高い抗ロイコトリエン薬を併用したり、ブソイドエフェドリン含有の抗ヒスタミン薬が処方される場合もあります（表1）。あまりにも症状が強い方の場合は、経口ステロイドを少量、短期間服用する場合もあります。

病型	くしゃみ・鼻水型	鼻づまり型または鼻づまりを主とする完全型
治療	鼻噴霧用ステロイド薬 + 第二世代抗ヒスタミン剤	鼻噴霧用ステロイド薬 + 抗ロイコトリエン薬 + 第二世代抗ヒスタミン剤 もしくは 鼻噴霧用ステロイド薬 + ブソイドエフェドリン含有 第二世代抗ヒスタミン剤

表1 重症例に対する花粉症の薬物治療

2. 免疫治療

花粉症の症状が軽い方から重症な方までが対象になります。とくに薬を飲むと眠気が強くでて治療を継続できない、薬の内服量を減らしたい、将来妊娠時の治療に不安がある女性や、受験期がスギ花粉症の時期と重なる学生は免疫治療を勧めます。

薬物治療との違いは継続して治療を続けることで、花粉に対するアレルギー反応が次第に軽減し症状が全般的に軽くなり、また免疫治療をやめた後も治療効果の持続が期待できます。約7割の方に効果が期待できると言われていますが、免疫治療は薬物治療と比較してすぐに効果は期待できず、また3年から5年の間継続することが必要です。

免疫療法には皮下免疫療法と「舌下免疫療法」があります。今までは皮下免疫療法が主流でしたが、2014年からスギ花粉症に対する舌下免疫療法が保険適応となり、安全性がより高い舌下免疫療法へ徐々に移行しています（表2）。

	舌下免疫療法	皮下免疫療法
投与経路	舌下滴下	皮下注射
適応年齢	12歳以上	5歳以上
治療時の痛み	なし	あり
副作用	舌下の安全性がより高い	
利便性	舌下は自宅で服用可能	
維持期の投与間隔	毎日	月1回
効果の出始め	1-2年	7-8か月
効果	効果は同等か舌下免疫がやや劣る	
治療期間	3-5年	3-5年

表2 免疫療法の特徴

最後に

スギやヒノキの花粉飛散量は、前年の夏の日照時間が長いほど多くなります。昨年の夏は非常に天候もよく、今年の飛散量は去年と比較して多いと予想されています。

外出時はマスクや眼鏡で花粉を吸い込むのを防ぎ、帰宅したときは、家の外で衣類に付いた花粉をしっかりと落して家の中に持ち込まないようにすることが大切です。各県医師会のウェブサイトなどが発表する花粉の飛散状況を参考にすると対策もたてやすくなります。

■耳鼻咽喉・頭頸部外科

初診日：火・木 ※紹介状・予約が必要です。

お問い合わせ：予約センター受付 9：00-16：00

（土日祝日、12月29日-1月3日は除く）

TEL 092-642-5508 FAX 092-642-5509

▶▶▶ 診療科のご案内 ①

消化管外科(2)

消化管外科(2)は、おもに食道・胃・大腸を担当領域としています。肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科、呼吸器外科などと連携し、がん治療を中心に手術を行っています。

食道がん、胃がん、大腸がんの手術では、最近ではいずれも9割以上が鏡視下手術を採用し、傷を小さくして身体に優しい手術を心がけています。この方法は痛みが軽いので術後の回復が早く、早期の社会復帰が可能です。

また、進行したがんに対しては、他科とも連携して薬物治療や放射線治療など総合的な診療に取り組み、治療成績の向上を図っています。そのままでは大きくて切除が難しいがんであっても、このような集学的治療により根治切除ができることがあります。

がん治療は日々進歩しているため、最新の薬剤だけでなく、大学病院ならではの未承認の治験薬も使用できることがあります。私たちは、個々の患者さんにとってつねに最適な治療法を選択し、根治を目指した積極的な治療に取り組んでいます。

消化管外科(2) : <http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp/shinryo/geka/02/1.html>



▶▶▶ 診療科のご案内 ②

顎口腔外科

顎口腔外科は1922年に九州大学医学部に歯科学講座が開設されたのが始まりで、今年で94年目を迎え、歯科ではもっとも古い講座です。

年間の初診の患者数は約3,000名で、口腔顎顔面の腫瘍、口唇口蓋裂、顎変形症、外傷などの手術から抜歯などの小手術まで外科的治療はもとより、口腔粘膜疾患、ドライマウス(口腔乾燥症)、摂食・嚥下障害、発音言語障害などの口腔内科的な治療にも携わる守備範囲の広い診療科です。

口腔悪性腫瘍に対する治療方針については、院内の連携を強化して、九州大学病院がんセンターの口腔部会でカンファレンスを行い、一人ひとりの患者さんにベストの治療を選択できるように日々取り組んでいます。また、口唇口蓋裂についても専門外来(CLPクリニック)を開設し、出生前からカウンセリングを行い、両親の不安や疾患に対する偏見を取り除くようにしています。出生後は早期に往診を行い、治療説明や哺乳指導を行います。現在は、CLPクリニックで、小児歯科や矯正歯科など、他の専門科と連携したチーム医療を行っています。

顎口腔外科 : <http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp/shinryo/dent/07/index.html>



CLPクリニックの診療風景

■連載 メディカルスタッフを紹介します [22]

このコーナーでは本院の医療スタッフの役割を順次、紹介します

歯科衛生士

歯科衛生士は医療技術部に所属し、現在19名のスタッフが北棟4階と5階の歯科診療室で業務にあたっています。口腔内の環境と全身の健康は密接に関わり、歯周病が全身疾患に大きく影響することが明らかになっています。

また、2014年4月から周術期口腔ケアセンターが開設され、医科と歯科が連携して、がん患者さんの口腔機能管理を行っています。口腔ケアが誤えん性肺炎や手術後の感染症予防につながることも立証されているため、歯科衛生士はたいへん重要な役割を担っています。

歯周病やむし歯予防は、セルフケア(自己管理)とプロフェッショナルケア(歯科医師・歯科衛生士)の二つに大別され、この二つのケアがそろって口腔内の健康が維持されます。

一生おいしく食べられるように口腔の健康維持をサポートしていきますので、歯科受診の際は、お気軽にお問い合わせください。



外来診療棟 1階ホスピタルモールで 春の訪れを告げる、ひな人形展示中！

今春も外来診療棟 1階ホスピタルモールに、ひな人形がお目見えしました。

このひな人形は九州大学病院の看護職員親睦会「さくら会」の所蔵で、一組は大正期、もう一組は昭和初期のもので

す。かつては看護師宿舎に展示していましたが、より多くの方々に見ていただきたいとの思いで、数年前から外来診療棟に展示するようになりました。

病院にお越しの際はぜひご覧いただき、春の訪れを感じてください。



九州大学病院看護部に代々受け継がれる大正期（左）と昭和初期のひな人形



展示期間：2月1日（水） - 3月15日（水）
展示場所：外来診療棟 1階ホスピタルモール

九州大学病院別府病院 麻酔科

九州大学病院別府病院麻酔科は、麻酔科指導医 1名に加えて大学院生 1名、九州大学病院（福岡）からの後期研修医の応援を得て日々麻酔診療を行っています。

別府病院で行われている手術は、整形外科は脊椎手術、外科は消化器、肝臓・胆道・膵臓、乳腺などの悪性腫瘍の手術が中心です。

ご高齢の患者さんの増加に伴い、糖尿病、高血圧、虚血性心疾患、脳梗塞などの合併症をもった患者さんも増加しています。このため外科系各科だけでなく、内科・循環器内科の医師とも連携して、適切な術前評価・周術期管理を行っています。

術前に合併症を治療したほうがより安全に手術できると判断された患者さんには、合併症の治療後に手術を行うこともあります。手術という大きな身体的ダメージから患者さんを守るために、各部門が協力して高度な医療とサポートを提供しています。

麻酔科スタッフは周術期管理チームとして関係スタッフと協力して、患者さん一人ひとりに合った安全性の高い周術期管理を提供していけるよう頑張っています。



■がん看護外来

——患者さんが安心して治療継続できるよう、サポートします がん看護専門看護師 坂本 節子

九州大学病院では2015年9月から、がん看護外来を開設しました。がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師、がん化学療法看護認定看護師の7名が担当し、がんの症状や生活面での不安や悩み、がん治療に伴う症状のコントロールについて、解決策を考えています。

がん看護外来では、医師からの説明に同席し、悪い知らせを聞いた後の気持ちの整理や、闘病に伴う不安な気持ちを、主治医の前では言えなかったことなどの話を、ゆっくり聞き、患者さんが安心して治療継続できるようにサポートをしています。

また、抗がん剤治療や放射線治療中の患者さんの副作用に対するケアを個別に行い、日常生活で困っていることな

どを確認し、薬剤師、栄養士、メディカルソーシャルワーカー（社会福祉士）などの多職種の医療スタッフとの連携も行っていきます。



最近では、オブジーボ治療を行う患者さんの診察前問診を行い、副作用の早期発見、自宅での症状出現時の相談窓口としての対応を行い、主治医や外来看護師と連携を取って患者さんの不安の軽減に努めています。受診を希望される患者さんは、まずは主治医にご相談ください。

九州大学病院ボランティア委員会

ボランティア募集について

【愛の図書室】

図書（小説・随筆・マンガなど）や録音図書、CDなどを貸し出しています。患者さんがホッとできるような雰囲気作りを心がけています。



ボランティアに興味のある方や見学をしたい方は、お気軽にお問い合わせください（ボランティア活動は一人あたり月に1、2回程度です）。

活動日 毎週 月曜日・水曜日・金曜日（祝日は休み）
11：00～14：30
※時間帯などについてはご相談ください
活動場所 南棟4階 愛の図書室

【ゆめりんご】

小児病棟の患者さんに「付き添うご家族」へ、手作りのお菓子や飲み物でホッと一息してもらえる「カフェ」を開いています。

このほか7月に夏まつり、12月にクリスマス会（演奏会・ゲーム etc.）を開催し、入院中の患者さん・ご家族、そしてボランティアスタッフも楽しい時を過ごしています。

お手伝いしてくれる方・お菓子を作ってくれる方、大歓迎!!
ぜひ、気軽に見学にお越しください。

活動日 毎月第2水曜日 14：00～16：00
※時間帯などについてはご相談ください
活動場所 北棟6階小児医療センター デイルーム



【ほほえみ】

子どもたちはバルーンがふくらむだけで、でき上がった時には「わーっ!」とキラキラ目を輝かせて、とびっきりの笑顔になります。ご家族もとっても楽しそう。キッズルームは笑い声があふれています。バルーンアートで子どもたちとご家族の心が少しでも元



気になればいいなあ、という思いでいっぱいです。

私たちと一緒に活動してくれる方を募集しています♪

活動日 毎月1回 基本 第4木曜日または金曜日
11：00～12：30
※毎年8月はサマーバルーンフェスティバル開催
活動場所 北棟6階小児医療センター プレイルーム



《お問い合わせ先》

九州大学病院ボランティア委員会
ボランティア・コーディネータ 姫島
TEL：090-8660-8538
九州大学病院患者サービス課医事係
TEL：092-642-5981
e-mail：byniji@jimu.kyushu-u.ac.jp

病院にお越しの際は保険証をお忘れなく!

※保険証の提示がない場合には、保険での取扱いができません。



九州大学病院（病院キャンパス）は敷地内
全面禁煙です。

■病院の理念

患者さんに満足され、医療人も満足する医療の提供ができる病院を目指します。

■基本方針【理念に基づく実行目標として、下記の5つを掲げています】

- ①地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進
- ②プライマリ・ケア診療の充実
- ③全人的医療が可能な医療人の養成
- ④専門医療の高度化を目指した医学研究の推進
- ⑤国際化の推進



九州大学病院
KYUSHU UNIVERSITY HOSPITAL

TEL 092-641-1151 [代表] FAX 092-642-5146 [外来]
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1番1号
(ホームページ) <http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp>